

B114

神田地区を舞台にした建築・まちづくり教育の実践的展開 下町神田の路地再生

Practical development of a building / the making of education that I did on the stage
of Kanda district to wait

- Alley reproduction of a downtown area-

小林 克弘 (教授)

西田 司 (助手)

高見沢 邦郎 (教授)

梅田 綾 (COEスタッフ)

Katsuhiko KOBAYASHI (Prof.), Osamu NISHIDA (Res. Assoc.),
Kunio TAKAMIZAWA (Prof.) and Aya UMEDA (COE Collaborator)

ABSTRACT

A downtown area -- alley reproduction of Kanda. The community design performed with a local resident for the alley in Kanda where the road of the width member of 2.7M made after the earthquake disaster is still used as residents' life line of flow. The research proposal of technique which cuts off in construction the life scenery made in an alley, and they border and make emerge. Locality of the alley in Kanda is made to emerge by residents' activity.

キーワード：路地 コミュニティデザイン 居住者のアクティビティ
Keywords: Alley, Community design, Residents' activity

1. 本研究の目的

下町神田の路地再生。震災後にできた9尺の幅員の道路が未だ住民の生活動線として利用されている神田の路地を対象に、地域住民とおこなうコミュニティデザイン。彼らが路地において作り出す生活風景を建築的に切り取り、縁取り、浮かび上がらせていく手法の研究提案。日常的に利用される住民の公共空間としての路地のアクティビティを賦活更新し、変わりゆく都市の路地・街路空間を再生する

2. 研究概要

研究を行う際に客観的に町の様子を調査するのではなく、町に入り込み正しく街の状況をつかむことを目的とし、神田に研究拠点を設ける一方、CETに参加し、イベントを企画・仕掛けていく中で、より深く街の状態や住民の意見、展望をつかむことを目指した。

2.2 現況調査

大通りの裏側にひっそりとたたずむ通りを対象とし、この通りを再生する事で、町全体を再生していくことを考えた。テーマを『Re-Street』とし、住民を対象としたヒアリングを行った。その中で、昔からの住人の街や生活に対する思い、変化する街や人、人との関係に戸惑いながらもどうしようもないと感じている状況が浮かび上がって

きた。



写真1 現況路地写真01



写真2 現況路地写真02 写真3 現況路地写真03

示する。

3. ワークショップ概要

かつてからあった風景をもとに新たな風景を作り出すとともに、イベントを通し、新旧の住民が歩み寄りきっかけ作りとなることを目指した。

一本の裏路地の各部分の状況を読み取り、それぞれに対し仕掛けをした。

調査、イベント期間中の様子を通じ、現状の街の中の様々な問題点が明らかになった。特に近年増加している新規の建物や住民と、古くからの神田の生活の間にある乖離が浮かび上がった。

住民同士の間でも、近年では路地に出ることが少なくなっていた老人同士が話をする、子供たちと路地で遊ぶことを通し住民同士が交流を深める、路地をジャックしスクリーンに映像を映し出し路地の今後を話し合う。これらの中で、路地に対する意識は以前より強くなったのではないだろうか。

3.1 ワークショップ「スノコ」

路地の私道部分の路面にはスノコを敷き詰め、家の凹凸や路地に溢れ出す生活のラインを視覚的に浮かび上がらせるとともに、路面が土だった頃にはなかった家と路地との境界を再び曖昧なものとするを試みた。

3.2 ワークショップ「ペタペタ」

狭い路地空間の中で大きな面積を有し、現在の風景を大きく規定する要因となっている工事現場の仮囲いを展開し、長い壁を活用し路地から消えていた子供たちの遊ぶ風景を復活させようとした。

3.3 ワークショップ「スクリーン」

土地の限られた都心に位置するこの地区では、伝統的に道を舞台とし、祭りを始めとする町のイベントを行ってきた。大きなビルが建ち並ぶ、路地の終着点には、スクリーン状の布をかけ路地を封鎖することで路地を生活の場として示すとともに、路地全体の一体感を創出した。

4. 今後の展開

イベントを仕掛けることで明らかになったこと、実感したことをもとに、さらに研究を深めるために、住民を始めとした、様々な立場で神田に関わる方々から話を聞く機会を設けた。

CETでの活動とこれらを一冊の本にまとめ、神田の現状と展望を検討するとともに、神田以外の地域の方々に対しても、町づくりの一つの方法を提



写真4 スノコ01



写真5 スノコ02



図1 スノコ平面図



写真6 ペタペタ01



写真7 ペタペタ02



写真8 スクリーン01

図2 路地概要

注1) CET(Central East Tokyo)

神田～日本橋～八丁堀を結ぶ都心エリアで開催されるイベント。街をギャラリー化し、近年、オフィスの空洞化などにより活気を失いつけているこの地域に元気を取り戻すということを主旨としている。